



No. 4 4

平成30年7月4日

発行 多治見市教育研究所

URL:

<http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>

本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。



教育再生元年にあたって

多治見市教育委員会 教育長 渡辺 哲郎



多治見市教育委員会は、今年度を教育再生元年と位置付けています。

第2次多治見市教育基本計画(たじみ教育生き生きプラン)5年間のスタートとなる節目の年だからです。

教育を巡る環境は、AI(人工知能)の進化、国際化、学習指導要領の改訂等、大きく変化しています。

その中で、今後多治見市の教育をどう進めていったらいいでしょうか。

多治見市は、教育基本法第17条第2項に基づき、本市の実態に合わせた教育振興基本計画を策定しています。今回の第2次では、教育環境の変化に柔軟に対応できるように、国の第3次教育振興基本計画、岐阜県の第2次教育ビジョンと整合させつつ、5年間としました。

本市は、全国にも誇れる計画行政の先進都市です。市の施策は、全て、総合計画を基本として実施されます。教育基本計画は、総合計画と教育大綱に基づく教育分野の個別計画であり、実効性を伴う計画でなくてはなりません。

これまで、重点としてきた脳活学習、スキルアップ学習等の習慣向上プロジェクト、体トレ等の健康・体力づくりプラン、インクルーシブ教育推進プラン、家庭教育の親育ち4.3.6.3事業を継承しつつも、教育現場の多忙化を鑑み、過度な負担を避けつつも、学校が自主性、主体性をもった創意工夫されることを期待しています。

今回の計画の策定に当たっては、PTA、小中学校長、幼保園長、教育委員、大学教授等で構成する教育基本計画策定市民委員会を設置し、1年かけた熱い議論を通して案を策定しました。策定にあたり、昨年実施した「多治見市学習意識調査」、「全国学力・学習状況調査」、「全

国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果などを踏まえた多治見市の教育課題を討議課題集としてまとめ、それを基に学校現場や市民間で激しい議論を繰り返しました。

「学級経営が教育の1丁目1番地」、「学校ビジョンがあればよく、市教委からあれもこれもと指示をされたくない」、「幼児教育の必要性への議論が欠けている」、「子ども個々の違い、可能性をもっと認めるべきだ」、「テストの点数結果ではなく、勉強、スポーツを好きになることが大切」・・・

特に、計画の基本となる多治見の教育が求める子ども像については、活発な意見が飛び交い、多くの時間を費やしました。

結果、「自立と共生」をキーワードとした

- ①自らの力で未来を切り拓き、自立して生きる子ども
- ②自他の良さや違いを理解し、共生する子どもの2つを目指す子ども像としました。

そのために、子どもの学力、体力、社会性を伸ばし、自分への小さくとも確かな自信である自己肯定感を高めることを目指します。

また、今回の計画は、共生にふさわしく、インクルーシブ教育の概念を要支援児のみならず、経済格差、いじめ、不登校等広くとらえて、特色ある事業を体系化してあります。

今年は、この計画を教職員の皆さんにも是非、周知したく、教育長訪問の機会を借りて概要を説明していきます。

市のHPに計画の全容が掲載されていますので、ご一読ください。学校・園と地域、家庭が連携、協働し、目標に向かい同じベクトルで、進んでいきましょう。

土曜学習「わがまち 多治見 大好き講座」

5月美濃焼名人になろう

土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」は、平成30年度も「多治見に愛着をもち、誇りに思う大人に育ってほしい」という願いのもと、9回を予定し、スタートしました。

5月26日は、多治見市美濃焼ミュージアムと多治見市陶磁器意匠研究所の2ヶ所で「美濃焼名人になろう2018」を開催し、38人の子どもたちが受講しました。

美濃焼ミュージアムでは、400年前の陶片に実際に触れて、クイズに答える活動を通して、「黄瀬戸」や「瀬戸黒」、「おりべ」、「志野」等美濃焼について学びました。茶室では、美濃焼の茶碗で抹茶をいただく体験もしました。

意匠研究所にはバスで移動し、ろくろを使った陶器づくりと施設見学をしました。難しい電動ろくろでの作陶でしたが、研究所の先生方にマンツーマンで教えていただき、全員が見事に完成させました。研究所内の見学もさせてもらい、普段は見られないめずらしい機械を見せていただいたり、陶器を焼く窯の温度について興味深いお話を聞かせていただいたりしました。

この講座でも8人の中学生ボランティアが受付やグループリーダーの役割を務めました。意匠研究所では、ろくろや板についた粘土を一つ一つ雑巾で落とす仕事も自ら進んで手伝っていました。大変な仕事にもかかわらず、気持ちよく動く姿が見られました。



5月：作陶体験 (意匠研究所)

6月 科学に挑戦

6月16日(土)はとうしん学びの丘エールにて「科学に挑戦2018」を開催しました。

前半は、深谷元校長先生による科学の話を全員で楽しく聞きました。

後半は、5つのグループに分かれて市内の理科の先生による講座に参加しました。

それぞれの講座は「じしゃくであそんでかんがえよう」「化石とりだし体験と化石レプリカ作り」「物の見え方の不思議」「『浮沈子+人工いくら』作り」「音について」をテーマとして体験を中心に実施されました。

講師の先生以外にも、中学生ボランティアやサポーターの先生に支援をしていただくことで、すべての参加者が楽しく取り組むことができました。



6月：深谷先生のお話 (エール)



6月：化石とりだし体験 (エール)



5月：美濃焼について学ぶ (美濃焼ミュージアム)

わたしの主張2018

6月23日、「わたしの主張2018多治見市大会」が、パロー文化ホールを会場として開催されました。今年も、小・中学校の代表26名が、多くの聴衆を前に、自信をもって堂々と発表をしました。

26人の児童・生徒が選んだテーマは様々であり、大変興味深いものでした。地域のこと、共に生きるということ、平和について、環境に関わること等、小・中学生ならではの新鮮な感覚で、広く、深く周囲を見つめ、気付き、考えたことを述べました。周りの人を思いやったり、将来を展望したりして、前向きに自分の生き方を切り拓いてこうとする強い姿勢や決意が感じられました。

<p>《審査結果》 =小学生=</p>
<p>最優秀賞 滝呂小学校 吉田 佳保 さん 「いじめのない学校にするためにできること」</p>
<p>優秀賞 南姫小学校 三輪 ゆめの さん 「きずなノート」</p>
<p>脇之島小学校 坂井 充樹 さん 「ルールで守られるぼく達の未来」</p>
<p>社会を明るくする運動賞 脇之島小学校 坂井 充樹 さん 「ルールで守られるぼく達の未来」</p>
<p>奨励賞 市之倉小学校 梶田 悠加 さん 「『ねこ』から学んだ命の大切さ」</p>
<p>養正小学校 近藤 巧 さん 「みんなが関わり合えるように」</p>
<p>北栄小学校 加藤 瑠乃 さん 「将来の夢」</p>
<p>精華小学校 倉橋 奏和子 さん 「弟と生活して感じたこと」</p>
<p>昭和小学校 伊藤 彰啓 さん 「昭和小学校のき・ず・な」</p>
<p>池田小学校 山口 敦也 さん 「人と人工知能の協力」</p>
<p>共栄小学校 上野 陽葵 さん 「ボランティア活動をして」</p>
<p>根本小学校 山本 みつき さん 「ボタン一つの社会から学ぶ」</p>
<p>笠原小学校 栗田 圭佑 さん 「一日一日の生活を大切に」</p>
<p>小泉小学校 村上 絢香 さん 「学校を美しくするために」</p>

<p>《審査結果》 =中学生=</p>
<p>最優秀賞 北陵中学校 カトリ ロニカ さん 「頑張れば何でもできる」</p>
<p>優秀賞 笠原中学校 加藤 実那 さん 「普通ってなに？」</p>
<p>南ヶ丘中学校 武井 鈴 さん 「私の中の『正義』」</p>
<p>社会を明るくする運動賞 陶都中学校 河野 葵 さん 「思いの伝え方」</p>
<p>奨励賞 南ヶ丘中学校 玉木 里乙奈 さん 「技術の進歩と私達」</p>
<p>平和中学校 渡部 舞子 さん 「大事な命を守るために」</p>
<p>小泉中学校 山本 歩乃歌 さん 「歩き始める私」</p>
<p>多治見中学校 加藤 明莉 さん 「今を生きる個性たち」</p>
<p>小泉中学校 近藤 愛唯 さん 「顔のない表現者」</p>
<p>多治見中学校 斎藤 祥悟 さん 「当たり前前を 当たり前前」</p>
<p>陶都中学校 加藤 楓花 さん 「病気になるって分かったこと」</p>
<p>南ヶ丘中学校 石川 藍衣 さん 「言葉について考える」</p>
<p>南姫中学校 川島 成美 さん 「小さくても大切な命」</p>



表彰式後の記念撮影

多治見市 初任者研修

4月24日（火）に平成30年度 第1回多治見市初任者研修が行われました。（昨年度までは年間4回あったこの研修は、今年度年間2回になりました。）

研修内容は以下の通りです。

- 1 自己紹介
- 2 多治見市の産業等について
- 3 多治見市の教育施策について
- 4 教育長講話
- 5 市長講話
- 6 普通救命講習

今年度の多治見市初任者研修の対象者は6名で全員が中学校に勤務してみえます。また、全員が多治見市外の出身でした。

午前中は多治見のことを知るための研修を行いました。今後仕事だけでなく、プライベートでも多治見を散策するなどして、初任者のみなさんにも多治見市の魅力を感じてほしいと思います。また多治見のまちや先生・子どもたちを大好きになってもらえたらうれしく思います。



午後は普通救命講習を行いました。心臓マッサージ・人工呼吸・AEDの使い方の他、熱中症・火傷・出血・骨折時の対応等を学びました。

先生方が、積極的に質問をする姿を見て、子どもの命を預かる「先生」としての自覚と責任をもって研修に臨んでいることがわかり、とても頼もしく感じました。



～初任者の感想～

- 「元気な笑顔で勤めきる」ことを大切にしていきたい、そして、子ども一人一人が楽しく自己充実感がもてるような指導を目指したいと思いました。
- 市長講話の中に「未完成の自分を自覚する」という言葉が出てきました。大学を卒業して教員採用試験にもストレートで合格した自分だからこそ、「人の気持ちにより添う」際には「未完成な自分」を意識しなくてはならないと思います。全ての生徒の気持ちは私では分かりません。しかし、分からないことを知ったうえで、何ができるかを考えて、子どもの前に立ちたいと思います。
- 何か問題が起きたときは、市長をはじめとする様々な方が教職員のことを支えるという心強い言葉をいただきました。その方々の思いにも応えられるように、自身の未熟さに正面から向き合っ子ども一人一人の実態を理解できるよう、精一杯努めたいと思いました。
- 教育長がおっしゃった「軸足を子どもに置いた指導」ができるようこれから心がけていきます。
- 岐阜県の3つの国宝の内2つが多治見にあることや、陶器の魅力、グルメについて等お話をいただきました。改めて多治見の伝統や大切にしている行事をもっと知りたいと感じました。多治見に来て、住み、働けること、これからもっと知っていけることをうれしく思いました。
- 普通救命講習では、生徒の命を守るためにも、迅速に対応し、落ち着いて応急手当をしたいと思いました。特に、これから熱中症が増えてくるときに、私が生徒の見本となる行動をし、命を守りたいと思いました。
- 子どものいる学校の安全を任されている以上、命にかかわる情報には今まで以上に真剣に責任をもって対応していかなければならないと感じました。

初任・新規採用の先生の紹介

「池田小学校での3ヶ月」

池田小学校 箕浦 えみな

養護教諭として働きはじめ3ヶ月が経ちました。初めは分からないことばかりでしたが、毎日元気な笑顔を見せてくれる子どもたち、親切に教えてくださる同じ学校の先生方や同じ校区の養護教諭の先生方に助けられ、元気に勤務ができています。



毎日、子どもたちは「先生、今日はこんなことがあったよ」「お腹が痛い」「怪我しちゃった」などと、いろんなことを伝えにきます。3ヶ月が経ち、体調不良や小さな怪我を訴える裏側に、抱えている思いがあるなど実感しています。来室した子どもたちが元気に教室に帰れるよう、丁寧な対話を心がけ、抱えている思いに耳を傾けていきます。そして、子どもたちと共に成長できる1年にしたいと思います。

「新任の抱負」

小泉中学校 曾我 治寿

「先生」と呼ばれるようになって3ヶ月が経ちました。毎朝、玄関に立って生徒たちを迎えながら、楽しく充実した日々を過ごしています。



先生として過ごす中では、うまくいくこともあれば、うまくいかないこともあります。しかしながら、生徒たちはいつでも、「大切な今」を生きています。そのため、二度とない時間を無駄にしないためにも、常に全力で生徒たちと向き合っています。それでも分からないことがあるときには、職員室の先輩方が小さなことでも細かく丁寧に、時間を惜しまず教えてくださいます。

未来ある生徒たちを預かることに責任を感じつつ、生徒や先輩方から多くのことを学びながら成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

「本当に生徒のためになる指導とは」

陶都中学校 加藤 彩華

教員としての生活が始まって、早3ヶ月が経ちました。まだまだうまくいかないことがあり、悩むこともあります。しかし、周りの先生方から温かなご指導を頂き、毎日少しでも前進しようという気持ちで日々を過ごしています。



私は指導をする際、それが生徒の力を育てるものとして本当に適切かを、より深く考えるようになりました。また、どんな力を付けたいのかという目的意識を明確にもつよう、意識するようになりました。今までの私は、生徒が呼びかける前に注意をしてしまったり、聞かれるとすぐに答えてしまったりしていました。しかし、他の先生方の姿を見て、それは生徒の可能性を潰してしまう、その場限りの指導であったと反省しました。常に生徒達の将来を見据えた関わりをこれからも心掛けていきます。

「意味を考えさせる」

陶都中学校 高木 祐太

私が教師になり、早くも3ヶ月がたちました。1年生の担任をさせていただき、毎日元気いっばいな生徒と生活しています。その中で、様々な考えをもった生徒を、一つ



のことに向かって行動させる難しさを感じています。たくさんの先生方から、アドバイスをいただき感謝の毎日です。

「意味を考えさせる」これが、私が今教師として大切だと考えていることです。生徒に、ただ「〇〇をしよう」といっても、意味が分かっていなければ、先生の前でしかやらなかったり、学校以外の場ではやらなかったりします。本当に大事なと思うことができれば、どんな時でも、行動することができます。行動できた姿を見逃さずどんどん価値付けたいと思っています。

「生徒と共に」

北陵中学校 横井 敏美

北陵中学校に来て3ヶ月が経ちました。入学式では緊張しながらも真剣に私の話を聞く生徒の姿に、私自身もこのクラスで頑張りたいと強く思えました。



4月から私が心がけていることは、生徒の様々な良さを見つけることです。授業を真剣に聞く人。挙手発言を積極的にする人。給食の配膳を手伝う人。自学自習ノートを毎日たくさん行う人。係の仕事を毎日やり遂げる人。様々な輝く姿があります。それらを朝の会や帰りの会で話をしたり通信を出したりしてクラスで共有しています。共有することで仲間の努力に気づき、自分も頑張ろうとする集団意識が高まるなどの良い姿が広がってきています。しかし一人一人の良さを高めながらも集団としての規律を保つことも大切であることを学びました。

集団として伸ばしていくために自分がどんな働きかけができるか、悩むこともたくさんあります。しかし周りの先生方と相談しながら自分らしいやり方を見つけこれからは生徒と向き合い、挑戦し続けたいと思っています。

「子どもどうしをつなぐ教師を目指して」

多治見中学校 大橋 正樹

私が教員になり3ヶ月が経とうとしています。学級経営や理科の授業、サッカー部での指導など、まだまだわからないことばかりですが、子どもたちに対して真摯に向き合う姿勢を大切にしています。



子どもたちと過ごし活動していく中で自分自身、数多くのことを学んでいます。特に、子どもが自分自身で考え行動していく姿に感動することがたくさんあります。クラスの現状などから今の自分たちに何が必要なのかを考え話し合い、それをもとに動いていく姿には驚かされてばかりです。このように、子どもたちは自分たちで考え行動することができます。なので、教師として大切なことは私たちが主体となって前に出るのではなく、子ども同士をつなぐ役割だと感じています。

私は初任であり、まだまだわからないこともたくさんあります。しかし、子どもの前に立てばそんなことは関係ありません。子どもにとっては頼れる先生であるべきだと思います。自分が関わるすべての子どもたちとともに最高の1年を創りあげられるよう日々精進します。

「生徒と共に」

南ヶ丘中学校 谷口 佳奈美

4月に、一人一人がいきいきと過ごすことができる学級を願い、教師生活が始まりました。学校生活の中では毎日子どもたちのエネルギーあふれる姿に元気をもらっています。子どもが精一杯になって頑張る姿や、日々成長していく姿を見ると、嬉しくて思わず顔がほころびます。



ときに、自分の指導の足りない部分を見てハッとします。ご指導をいただき、気づかなかった自分にもどかしさを感じるとともに、芯を持って「それはおかしい」と言い切ることの大切さをひしひしと感じます。現場に立つと、出来ないことや手際の悪いことがたくさんありましたが、いつも一緒にいる生徒たち、親身になって支えてくださる先生方、見守ってくださる保護者の方々のおかげでこの三ヶ月を過ごすことが出来ました。

「人は、誰もが何かのプロだ」と聞いたことがあります。そんな生徒一人一人と真摯に向き合い、感謝を忘れず、自分自身も共に成長出来るように、教師としての力を付けていきます。

【お知らせ】

平成30年度

第62回 多治見市科学作品展

日時：9月8日（土）

9月9日（日）

9時～17時まで

場所：バロー文化ホール 展示室



多治見市21校の小中学生の皆さんが、夏休みに取り組んだ科学作品の展示会です。各校の優秀作品が展示されますので、是非、ご覧になってください。

【お知らせ】

平成30年度

第24回 多治見市連合生徒会交流会

日時：8月6日（月）10時～16時

8月7日（火）9時～12時

場所：とうしん学びの丘“エール”

6日はドリームマップの作成

7日は各中学校の取組の交流を行います。

